神崎中2年 宮﨑 舞さんが 香取郡市中学生人権作文コンテストで 最優秀賞を受賞

千葉地方法務局香取支局管内において開催された中学生人権作文コンテストで神崎中学校2年宮﨑舞さんが最優秀賞を受賞しました。このコンテストには中学校10校から495編の応募があり、最優秀賞2編に選ばれました。宮﨑さんがいじめ問題について書いた作品を紹介します。

大切な友達

神崎中学校2年
宮﨑　舞さん

最優秀賞を受賞した宮崎舞さん

最近、頻繁に耳にする「いじめ」問題。幸い私の周りで「いじめ」を見かけることはありません。ですから、今までは、何となく別世界で、他人事でしたが、七月に学校で「人権教室」が行われた事がきっかけで、少しずつではありますが、自分に置き換えて新聞やテレビのニュースを見るようになりました。そこでショックだったのは、報道されているいじめの被害者、しかも自ら命を絶った人はほとんどが中学生であるという事実です。中学生で未来を失うなんて、今の私には考えられないし、とても恐ろしいことです。もちろん年齢は関係がないとは思いますが、自分と同じ中学生なのに「死」を選ぶほどに過酷な現実があったということにとても衝撃を受けました。

人間に「死」を決意させるほどの威力をもった「いじめ」とはどういうものなのか、定義を辞書で調べてみました。そこには「ある集団の内部で強い立場にある個人または集団が弱い立場にある者を肉体的、精神的に苦しめること」とありました。しかし、いじめる側は、いじめている意識がなく、ただ、ふざけていただけなのに、と言っているインタビューを見たことがあります。それも、加害者が被害者に対して「やり返して来い。」と言ったそうです。加害者が一方的に殴っていると第三者から指摘される前に、わざと反撃させて「いじめではなく、けんか」と思わせるために・・・・・。これでは、助けを求めたくても、その道をふさがれてしまっているのと同じです。集団で隠そうとするのなら、なおさら被害者は行き場をなくしてしまうのではないでしょうか。

私が、もし被害者になったらどうしよう。なんとかこの状況を変えるために、相談するのが一番だと思います。しかし、たぶん、親には言えません。きっと心配させてしまうだろうと思うからです。いつも、いじめや自殺のニュースがあると、私は両親に聞かれます。「神崎中は大丈夫？いじめはない？」と。心配してくれているのは分かっているけれど、返事をするのがちょっと面倒な時があります。何もなくてもそう感じるのに、もし何かあれば、聞かれたくないことも増えるだろうし、辛いことを思い出さなければならなくて、話したくないと思うからです。

そして、先生に相談するのも勇気がいります。加害者が同じ学校にいるとしたら、怖くて話せません。積極的に相談にのってくれそうな先生もいますが、先生に相談したことをもし加害者が知ったらと思うと、言えません。

そう考えると、相談できるのは友だちが一番なのだと思います。しかし、いじめられている自分をかばったせいで、友だちまで同じようになるのでは、と思うと、言葉が出てこないかもしれません。それでも、「話してくれてよかった。一緒に戦おう」と言ってくれるような仲間を作っていこうと思います。そして、私が相談されたのなら、勇気を出して友だちの話を親身に聞きたいと考えています。

「二人一緒なら、苦しみは半分になり、喜びは二倍になる。」と何かで読んだことがあります。その言葉の意味を実感できるくらいに何でも話し合える友だちと、精一杯楽しい中学校生活を送ろうと思います。

私は、自殺を考えるほど追い詰められたことがありません。しかし、誰にも事実を伝えられず、一人で抱え込んで悩んでいると、暗闇の中を道も目的も分からずに進んで行くようなものなのかなと思います。時間の流れも、現状も、何をしたらよいのかさえ分からず、冷静な判断ができなくなってしまうのかなと。しかし、たった一つの命を、人生を、加害者への復讐に使ってしまっては絶対にいけません。命を絶つ勇気を持つより、命をつなぐ勇気を持ってほしいと思います。そんな勇気を与えられるよう、誰とでもなるべく話をしていこうと思います。

人権教室では「被害者が嫌な思いをしたり、傷みがあれば立派ないじめです。」と講師の方がおっしゃっていました。誰に対しても嫌な思いをさせないように、自分の生活や行動を振り返らなければならないな、と思います。もしかすると、知らないうちに嫌な思いをさせてしまっている可能性があるからです。そして、嫌な思いをしている人がいたら話しかけたいと思います。被害者にはなりたくありませんが、加害者にも絶対なりたくないからです。

私たちの学校には、いじめはないと思います。休み時間も、一人ぼっちの人はいないし、教室は、笑いが絶えません。学校に来られない友だちもいません。私は、この学校でよかったと思います。そんな日々が続くように、友だちを、見守ってくれる先生を、いつも側にいてくれる家族を、信頼していこうと思います。